

各 位

会 社 名 ア ス ク ル 株 式 会 社
代 表 者 名 代表取締役社長 CEO 岩田彰一郎
(コード番号:2678 東証一部)
問 合 せ 先
役 職・氏 名 執行役員 CFO 玉井 継尋
TEL 03-4330-5130

その他の関係会社の決算に関するお知らせ

本日、当社のその他の関係会社であるヤフー株式会社（本店所在地：東京都千代田区紀尾井町1-3、代表者の名前：代表取締役社長 川邊 健太郎）より 2018 年度第 1 四半期 決算説明会 プレゼンテーション資料が発表されましたが、その資料にヤフー株式会社の第 1 四半期（平成 30 年 4 月 1 日～平成 30 年 6 月 30 日）における当社グループの売上高、営業利益について記載がありましたので、該当ページに関し別添のとおりお知らせいたします。

なお、添付資料のセグメント別業績において、当社の営業利益について△12 億円との記載がありますが、その主な事由は以下の通りです。

① 対象期間（当社の平成 30 年 5 月期第 4 四半期）における戦略コストの投下：影響額約 9 億円

当社の平成 30 年 5 月期（平成 29 年 5 月 21 日～平成 30 年 5 月 20 日）は、期中において利益目標が上振れて推移していたため、第 4 四半期（平成 30 年 2 月 21 日～平成 30 年 5 月 20 日）において、追加販促費や決算賞与（利益目標達成時のみ発生）等の一時的な戦略コストを投下しております。

② 当社関連の無形固定資産償却額の計上：影響額約 11 億円

ヤフー株式会社の I F R S 決算処理において、当社株式取得時に計上した無形固定資産を償却しておりますが、これは当社決算においては発生しないものです。

③ 当社とヤフー株式会社の決算期のずれによる調整：影響額約 2 億円

当社の決算日は 20 日締めである一方、ヤフー株式会社は末日締めとなっており、ヤフー株式会社の決算処理において期間調整を行っております。具体的には当社の平成 30 年 3 月 21 日～6 月 20 日の月次決算をベースに 3 月 21 日～3 月 31 日の売上高と売上総利益額を控除し、6 月 21 日～6 月 30 日の売上高と売上総利益額を加算し、ヤフー株式会社の決算期間である平成 30 年 4 月 1 日～6 月 30 日の決算数値を算出しております。控除される 3 月 21 日～3 月 31 日は当社の繁忙期となっており、加算される 6 月 21 日～6 月 30 日の売上高より多額となりますが、その売上高の差額の変動費（物流コスト等）は控除していないため、当該期間の営業利益は当社本来の実力値よりも少額となっております。（通期においてそのずれは解消されます。）

別添 ヤフー株式会社 2018 年度第 1 四半期 決算説明会 プレゼンテーション資料（抜粋）

以上

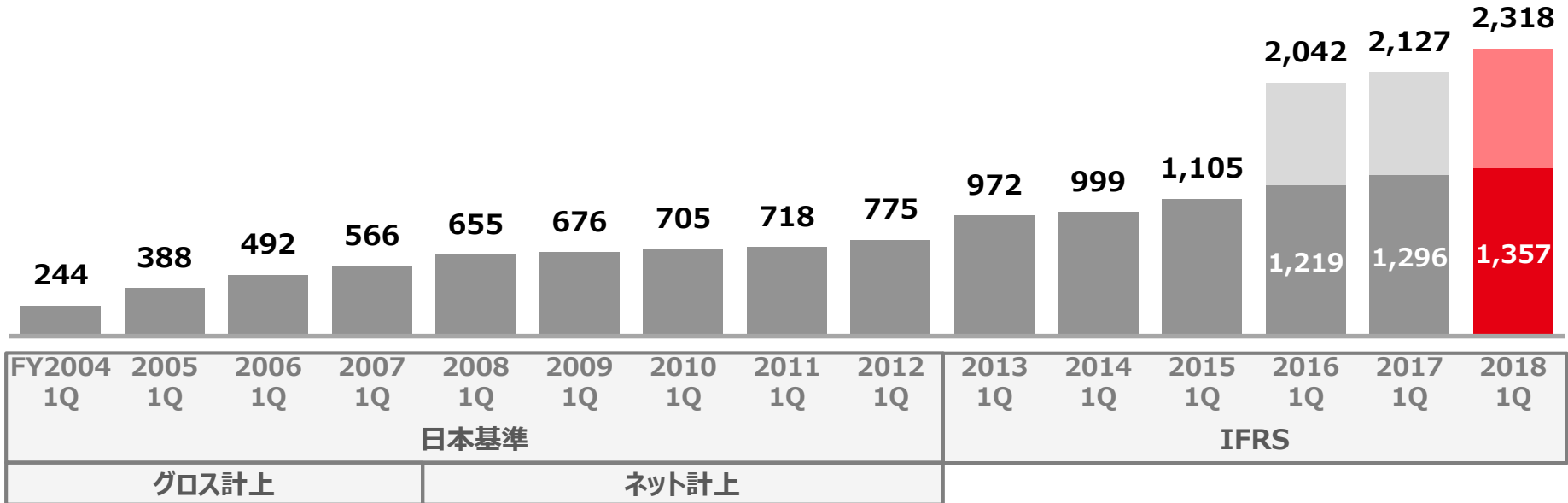
（注）平成 30 年 5 月 20 日時点でのヤフー株式会社は当社発行済株式総数の 41.67%を所有しております。

売上収益

(億円)

- アスクルグループの売上収益
- アスクルグループを除いた売上収益

2,318億円
前年同四半期比 9.0%増



注: 2008年度から2012年度まで、売上原価および販管費の一部の科目を差し引いた売上収益のネット表示を行っています。
 アスクルグループには、アスクル(株)に加え、(株)アルファパーチェス、(株)チャームなどが含まれます。
 アスクルグループの売上収益は、弊社決算期間で集計しており、かつアスクルグループ内の連結消去を考慮したものです。

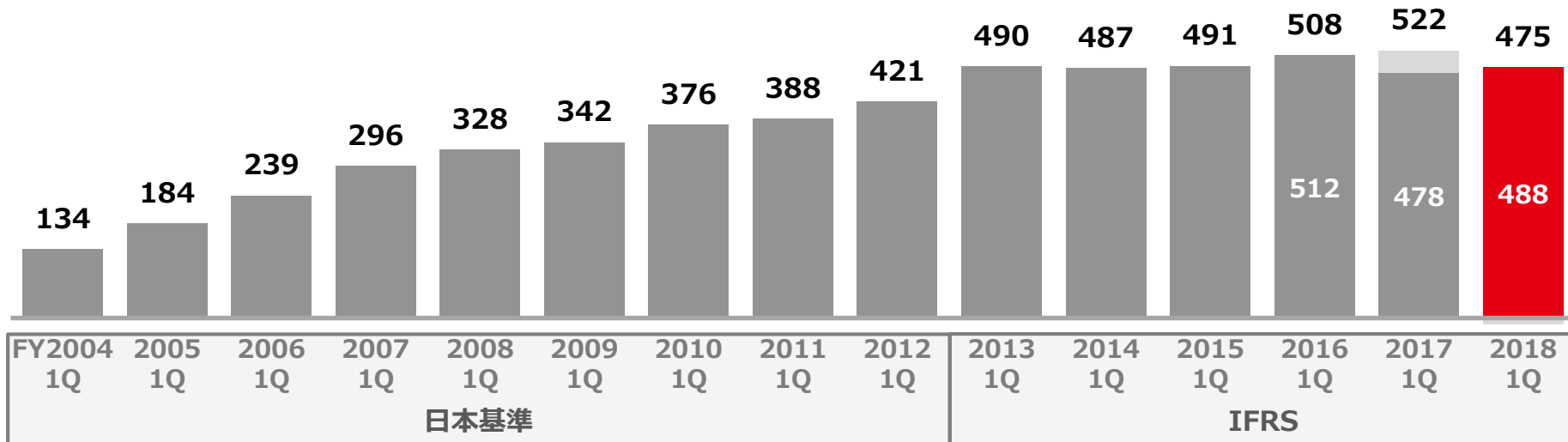
営業利益

(億円)

- アスクルグループの営業利益
- アスクルグループを除いた営業利益

475億円

前年同四半期比 8.9%減



注: 企業結合日時点に認識された識別無形資産の償却費を含んでいます。
アスクルグループには、アスクル(株)に加え、(株)アルファバーチェス、(株)チャームなどが含まれます。
2017年度には、アスクル(株)の物流センター火災による保険金の受取額49億円を含んでいます。
2018年度には、(株)IDCフロンティアの株式売却益79億円を含んでいます。

セグメント別業績

(億円)		FY2017 1Q	FY2018 1Q	前年同四半期比	
				実績	主な増減要因
メディア 事業	売上 収益	681	721	+6.0%	検索連動型広告売上収益の増加
	営業 利益	358	367	+2.5%	
コマース 事業*	売上 収益	1,407 アスクルG 830	1,584 961	+12.5% +15.7%	ショッピング広告売上収益の増加
	営業 利益	261 アスクルG 43	154 -12	-41.1% -129.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・物流センター火災による保険金受取額の剥落 ・アスクルGの一時的な戦略費用(決算賞与含む)投下 ・ポイント費用等の販売促進費の増加
その他 事業	売上 収益	59	31	-46.6%	(株)IDCフロンティア株式売却の影響
	営業 利益	10	89	+729.4%	(株)IDCフロンティア株式売却益の計上

注: 調整額を表示していません。過去の業績および比較は現在のセグメントに合わせて遡及修正しています。

* コマース事業の下段の数値は、弊社決算期間における連結後のアスクルグループの売上収益および営業利益です。

アスクルグループには、アスクル(株)に加え、(株)アルファパーチェス、(株)チャームなどが含まれます。